

1.「抑制」(身体拘束)についてお聞かせ下さい。

	2病棟	3病棟	病棟不明	合計
どんな時も抑制してほしくない。	6	6	5	17
抑制はしてほしくないが、病院(施設)側が必要と考えるなら仕方がない。	13	11	2	26
事故防止のために行って欲しい。				0
その他		1		1
「どんな時も抑制してほしくない。」でのコメント				
・でも、難しいと思う。時と場合によっては必要な方もいるのではと思うが、常時はダメ。				
・以前は(大学病院時)、仕方がないものと思っていましたが、上川病院以来、スタッフさんの手があれば、抑制は必要ないと実感しました。				
・抑制を受けていた当時は必要か否かの判断はできなかったが、母は今もう90才近い。拘束は人の心を傷つけるものだから必要ないと思います。				
その他の理由				
・誰にでもあてはめられるかは、わからななので。				
・抑制に全く反対している訳ではなく、動き回って抑えられない場合は抑制もありかな…と 思っています。				

2.当院入院前に「抑制」(身体拘束)を受けたことがありますか。

	2病棟	3病棟	病棟不明	合計
はい	10	10	5	25
いいえ	8	6	2	16
わからない		2		2
はいと答えた方は、どのような理由で、どういう拘束をされましたか				
・点滴の針を外してしまう				
・ベットから転落の恐れ				
・本人は覚えていないかもしれないが、状態が悪く自傷傾向有と思われた時期に独房のような部屋に入れられたようだ。				
・股関節骨折後、手術したため、ベッドにしばらく固定(胴体にベルト)された。				
・ベッドから降りて歩けないのに歩こうとした為、危険を察してベルトでウエスト部を拘束されていた				
・一時的にしていた。詳しく覚えていない。				
・治療後のリハビリでの病院で危険と云う理由で拘束され・固定されました。かぎつきのベルトでしたので身動き出来ずに居りました。家族が行って、はずしてもらって見守りをしました。				
・点滴を抜いてしまうため。				
・つなぎを着せられた。				
・導尿カテーテルにさわらないよう「つなぎ」を着ていた。				
・施設内を歩き廻り転倒などの危険があったため				
・骨折で入院した際、すでに不安定な状況だったため、家に帰ろうとしたりベッドに立ちあがったりしたため。				
・帰りたいと動くからと思う。入れ歯も飲み込むからとはずされ、ミキサー食にされた。昼は車椅子で手にはミトンと拘束、足も拘束されていた。夜はベットで、体は3本くらで、両足もたぶんあったかも、両手はそれぞれベッドの横の支えのフェンスに結ばれていた。尿についてもよく対応を必要とされたためか、ぼうこうろくにされた。人間扱いではないと思った。				
・「せんもう」などもあり、医療上必要ということで。				
・経管を抜かない様、摂取時のみ手袋をする				
・徘徊防止の為、車椅子にベルトで拘束されていました。又、ベットから転倒防止の為、身体拘束されていました。				
・脳梗塞で倒れた時、酸素吸入や点滴をはらいのけてしまうので、手をバンドでとめられた。				
・病院入院(治療)中、他の病室へ入ろうとしたり、夜中の徘徊があったため。(看護師さんが常に気を付けていることができず、トラブル防				
・前の病院で歩き回るのを防ぐため、車イスに固定。「転ぶと危ないから」と言われました。3週間で足がヨボつくようになりました。				
・病院へ入院した時、抵抗がすごいのでベットから落ちたらこまると				
・ベットから落ちる可能性があるため				
・救急病院で、人手も足りなく、父は帰りたいけれど身体が弱っているのに、立とうとして危ないので仕方が無い状況でした。				

3.上の質問2ではいと答えた方にお聞きします。当院で抑制しないことに対して不安はありましたか？

	2病棟	3病棟	病棟不明	合計
はい	1	2	1	4
いいえ	9	8	3	20
どちらともいえない	2	1		3
よろしければコメントをお書き下さい				
・スタッフの皆さんがとても気をくばってくださったので、心配はなかった。				
・怪我をするのではと心配した。				
・転落防止のウォーターベッド？のような柔かいマットを初め使っていたので安心して居りました。				
・事前に抑制に関して聞いていた。				
・スタッフの方の注意が行き届いているので				
・ただ、スタッフの方々は大変だろうと思いました。				
・毎日、帰りたいといい、出口を探し続けて、看護師・介護士さんに迷惑をお掛けするのではと思った。丁寧なケアで落ち着くといわれたが長年しみついた考えは変わらないので、帰りたいという要望は変わらないと思った。今は要望はあるが、病院に順応してきたようだ。少しだが。				
・職員さんがいつも見ていて下さるので。				
・徘徊や転倒の心配がありました。				
・床にやわらかい素材を使い、老人の身体や精神の自由、前向きな生きる意欲を安全に保障しようとしている貴院の姿勢に全幅の信頼を寄せています。				
・ケガのリスクより精神と肉体の自由を重んじたいと思います。				
・母が自由に動けるため				
・どうしたいかを考えて頂いているので、ありがたいと思っています。				

4.抑制を受けたことのある方にお聞きします。当院で抑制をはずしてから、患者さんに変化がありましたか。

	2病棟	3病棟	病棟不明	合計
はい	4	3	5	12
いいえ				0
どちらともいえない	5	5		10
はいと答えた方よろしければ具体的にお書き下さい				
・本人のストレスは減少したと思う。精神的に少し安定した。				
・本人の表情からおだやかな印象を受けた。				
・落ち着きを取り戻した気がします。				
・痴呆がすすんだため、環境に慣れたため、落ち着いたのだと思うが、抑制がないことによる面もあると思う。				
・4ヶ月、歩くことはなかったが、歩けるようになった。その後、歩けなくなり、立てなくなり、車椅子になったが、最近、また回復した。4月4日にはじめての一時帰宅を、病院の理解と協力の下で実施予定。				
・認知症がまだ初期？だったので、表情がおだやか。活動にも楽しそうに参加してました。				
・表情が穏やかになったと思います。				
・食欲が出た。顔付きが明るくなった。				
・足のヨボつきが回復した。表情が元に戻った。				
・とても穏やかな表情になっていた。				
・性格が明るくなった				
・病院に慣れて、笑顔も見れるようになりました(写真等に写る笑顔が本当に笑っている顔です)。安定しているように見えます(最近怒らなくなりました)。				

5.当院の抑制をしないという方針についてはどのようにお考えですか(該当するものすべてに○をお付け下さい)

	2病棟	3病棟	病棟不明	合計
賛成している	17	17	6	40
病院の方針だから従う	2	3	2	7
危険だから反対である				0
判断が出来ない	2			2
抑制についてあまり考えたことがない				0
その他				0
その他の理由				
・すべての人にあてはまるかはわからないため(判断できないの理由)				

6.抑制・身体拘束についてどんなことでもお書き下さい。

・医師の判断と家族の同意によっては、必要な場合行っても安全とやむを得ない状況もあるかと思えます。
・病院の方々は大変だと思うが、動きたい時動けないと筋力も弱くなってますます寝たきりに近くなってしまう。生物として動きたい時動けないのは、むごい事だと思う。
・基本的に拘束には反対だが、安全確保上やむをえない場合には、最小限の対応をしてもよいのではないかと。スタッフの人的配慮だけでは難しい状況もあると思うので、ただし一日中ではなく、一時的な範囲にして欲しいが。
・大変だけど良い事だと思う
・拘束することでかえって抵抗する気持ちが出てきて、危険につながるのではないでしょう
・抑制には反対ですが、事故に繋がる危険も有るのではという心配はあります。
・抑制しない方針を掲げるためには、それだけ目を届かせなければならず、きめ細かいケアが必要で、スタッフの方々の温かさや日頃のご苦労には感謝しかありません。
・抑制は、患者さんに精神的ダメージを与え、よい方向にはいかないと思っている。
・抑制しないとスタッフの皆様、大変な事もあると思いますが、当人の意志で迷惑を掛けているのではなく、可哀想とってしまいます。
・面会に行くと看護師さんの目くばり、声かけ、対応をみて感謝です。いつもありがとうございます。母は幸福者です。
・病院側が危険と判断した時には至仕方ないと考えます。
・本人の気持ちがおだやかになるのでしない方がいい
・家族としては目にしたくない場面ではあるが、現場の大変さを考えれば多少しかたがない…とも思えます。
・抑制をされているのを見るのはつらいですが、スタッフの方のお仕事の事を考えると仕方ないのかなとも思えます。
・必要な人や必要な時もある方もいると思うが、その判断は大変、難しいと思う。前の病院でも、看護師さんで「本当は拘束したくないが、人手もないので」と言われていた。すみませんと言われていると思った。経営面、人員確保の事を考えても、この病院のように人員を手厚くできるとは思わない。しかし、前の病院は経営者や医師などのスタッフの多くが、こんなものと改善しようとは思っていないと考える。
・脳がダメージを受けていたとは言え、ミトンをはめ、身体を固定されカギをかける職員さんには、不信感を持ったと思います。
・抑制に100パーセント反対という訳ではありません。時と場合によっては抑制もありかなという考えはあります。
・血栓ができて危険であることはもとより、身体拘束は、その人に残された能力を使ってその人が自分らしく生きようとするのを否定することだと思えます。身体拘束をしないですむような環境づくりこそが、これからの医療の責任ある方向性でしょうか。
・職員の目が届かないことも、多忙な仕事では多々あるとは思いますが、家族としては面会時に、ベッドにしばりつけられて、起き上がることも、水も好きな時に、飲めない姿を見ると、悲しくなります。
・大きなベルトを見た時、まるで拷問を受けているようで辛かった。ベットに縛りつけられている姿を家族はみたくないですネ。
・人の行動には必ず思いがあるから、抑制・拘束をしないで、どうしたいかを考えてくれたり、行動パターンを見つけて下さるので、良い病院だと思っています。どの病院も誰でも出来る事では無いので、きっと大変だと思いますが、いつまでも、このポリシーで病院が続いて行くことを願っています。
・抑制をしないという方針を最初に決めて実践していることはとてもすばらしいと思います。ぜひ、貫いていただきたいと強くお願いいたします。